

私たちの暮らし
と関わる
兵庫県の予算
の、考え方

2026(令和8)年度の当初予算編成は、本格的な金利上昇に伴う公債費負担の増加などにより、多額の収支不足を見込んでいます。さらに、26年度から28年度までの3年間でおよそ530億円の収支不足が生じ、その先の年度も、財政環境の厳しさは続くと思われています。また、25年度決算では実質公債費比率が基準を上回り、起債許可団体に移行する見通しです^{*}。こうした環境の中でも、阪神・淡路大震災など数々の困難を乗り越えてきた先人から受け継いだ地域や暮らしを、着実に未来へつないでいかねばなりません。このため、財政の健全化に取り組みながら、必要な未来への投資も進めてい

ます。26年度には有識者で構成する検討会を設置し、今後の財政運営のあり方をできる限りオープンにしながら総合的に議論していきます。兵庫県は、県民の皆さんとともに、次の世代に誇れる兵庫の未来を築いてまいります。

兵庫県知事

齋藤元彦



※実質公債費比率とは、地方自治体の一般会計等が負担する借入金(地方債)の返済額(元利償還金)が標準的な収入(標準財政規模)に占める割合を示した指標で、過去3年間の平均が18%を超えると、地方債を発行する場合に国の許可を受ける必要があります

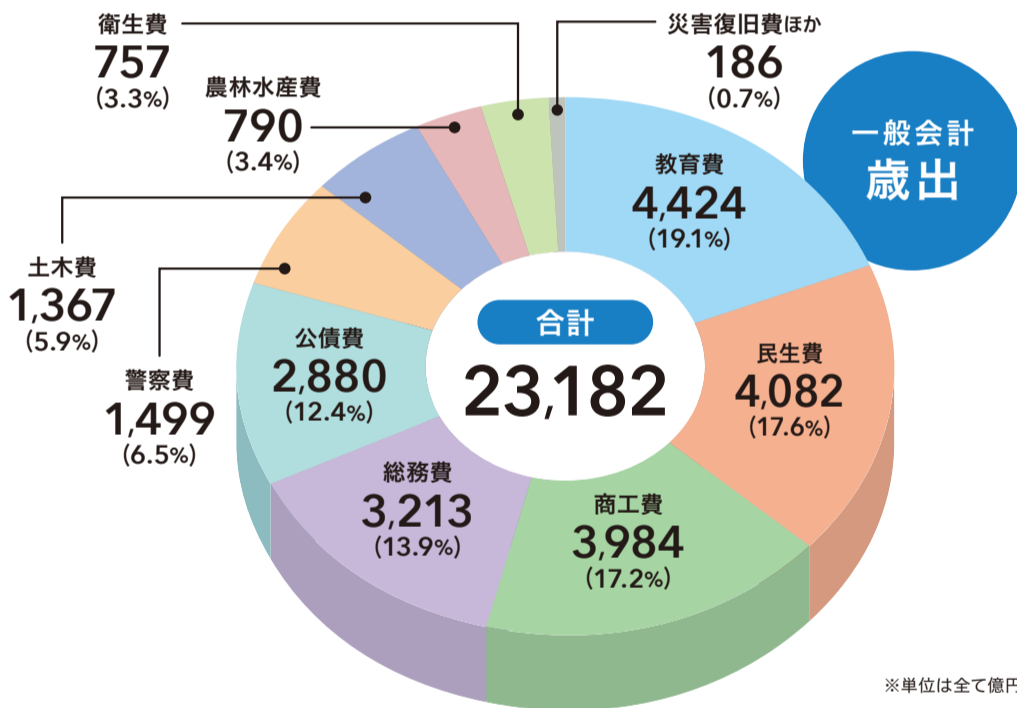
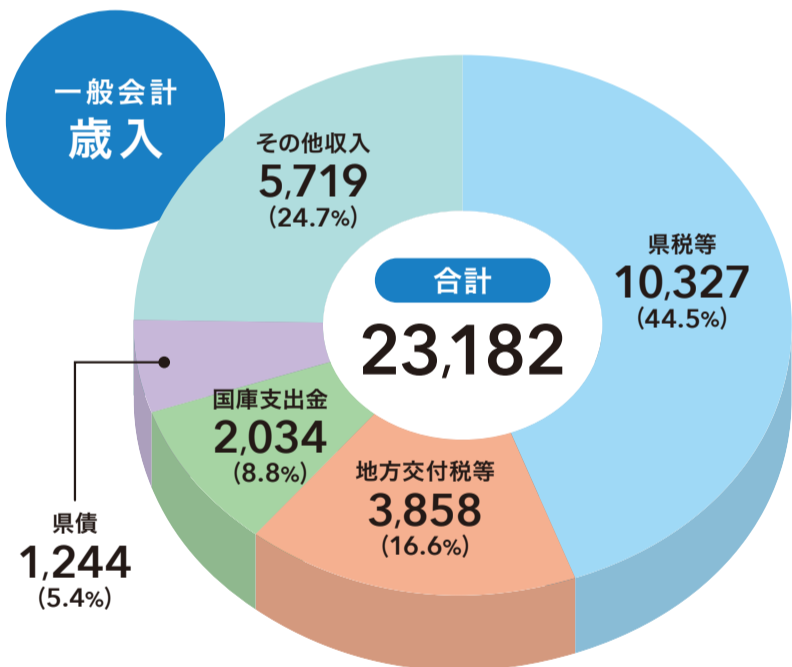
2026年度
当初予算

《総額》4兆5,303億円

- 一般会計 2兆3,182億円
- 特別会計 1兆8,359億円
- 公営企業会計 3,762億円

用語説明 各会計

- 【一般会計】福祉や教育など、県の基本的な事業を行う会計。県税や地方交付税などによって賄われます
- 【特別会計】特定の収入で特定の事業を行う会計。国民健康保険や県営住宅など、13会計あります
- 【公営企業会計】主に利用者が支払う料金収入で事業を行う会計。病院や流域下水道など、8会計あります



※単位は全て億円

用語説明 歳入

- 【県税等】県民税や事業税など、県に納められる税金
- 【地方交付税】地方公共団体が一定の行政サービスを提供できるよう、一定の合理的な基準によって国が再配分するお金
- 【国庫支出金】特定の事業の財源として国が交付するお金
- 【県債】道路整備等の資金調達で、国や銀行などから長期間借り入れるお金
- 【その他収入】県税の延滞金や預金利子、県からの貸付金の元利償還金など

用語説明 歳出

- 【教育費】県立学校や図書館の運営管理や整備などに使うお金
- 【民生費】社会福祉、児童福祉に関わる給付金や施設整備、運営などに使うお金
- 【商工費】中小企業の育成や企業誘致など、商業や工業の振興に使うお金
- 【総務費】財産管理や税務など県の運営全般に使うお金
- 【公債費】国や銀行などから借りた県債(借金)の返済に使うお金
- 【衛生費】健康増進や疾病予防、環境保全などに使うお金

問 県財政課 ☎078-362-3082 📠078-362-9049